

志津川湾における津波による 藻場の被害状況 —戸倉地区—

(財) 環日本海環境協力センター
東京大学 大気海洋研究所



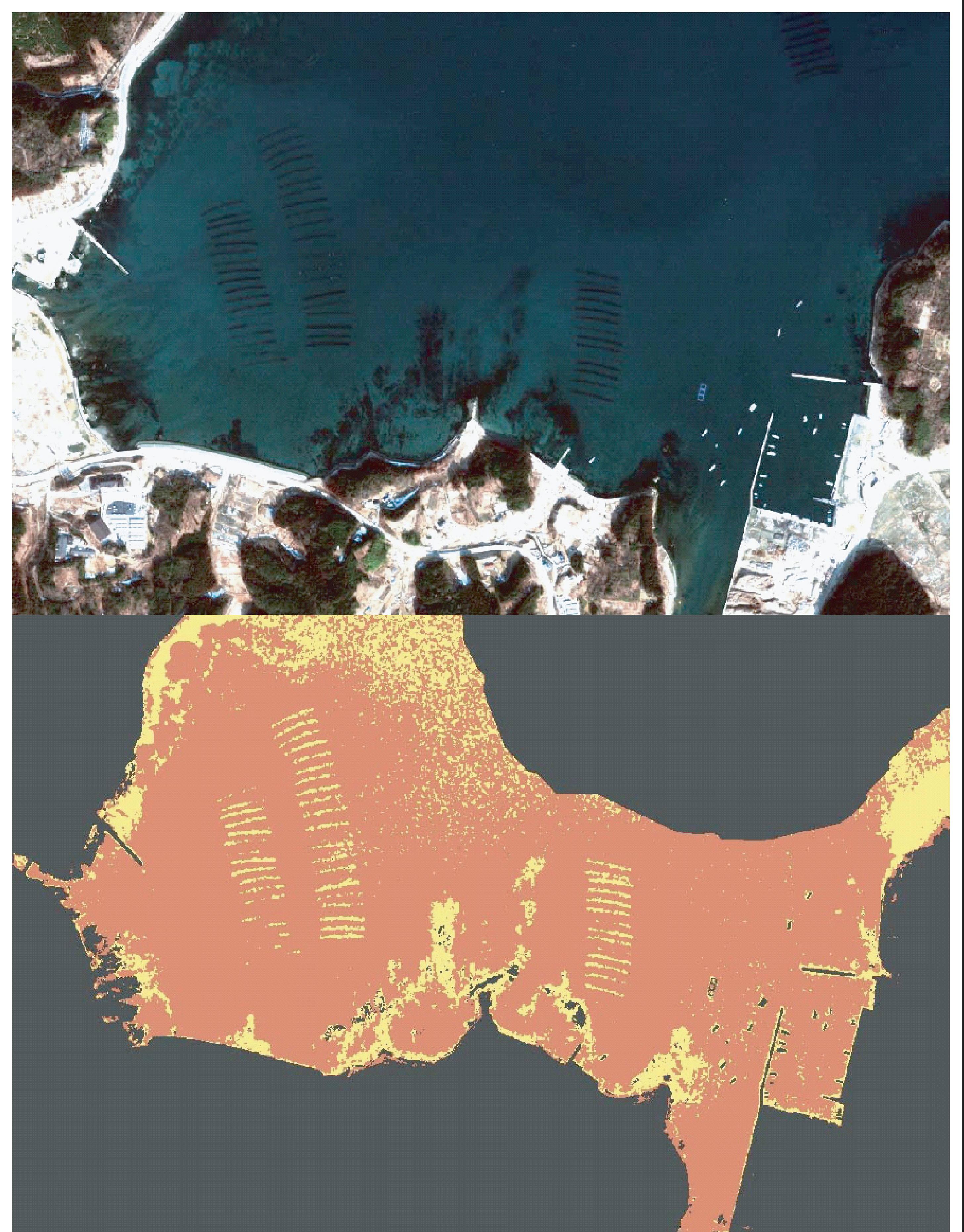
志津川湾は、三陸海岸の南部に位置する湾であり、カキ、ギンザケ、ワカメおよびノリ等の養殖が盛んな湾です。湾内には、アマモ類（アマモ、タチアマモ、コアマモ、スガモ、スゲアマモ）、アラメおよびホンダワラ類等の藻場が広く分布していました。

2011年3月11日に起きた東日本大震災と津波によって志津川湾の藻場がどのように変化したかを明らかにするために、湾南西部に位置する戸倉地区における震災前後の人工衛星画像を解析しました。

震災前2009年11月14日



震災後2012年2月22日



■ アマモ場
 ■ ガラモ場
 ■ 砂・泥
 ■ 陸と水深の深い海域

志津川湾では、湾奥の被害が大きく、戸倉地区の砂泥域に広がっていたアマモ場（上の図の緑色の部分）は、津波によって消失してしまいました。津波の後、湾奥以外のいくつかの場所では、アマモ場が回復しつつありますが、戸倉地区をはじめとして湾奥部のアマモ場は震災から1年以上経過しても回復していません。アマモ場が減少したこととは対照的に、津波の前は砂や泥の底質のためホンダワラ類、ワカメ、マコンブといった岩礁性の海藻（上の図の黄色の部分）が棲息していなかった場所に、津波によって海中に大量の瓦礫や岩等が散乱し、岩礁性の海藻が付着できる環境が発生し、ホンダワラ類、ワカメ、マコンブ等の海藻が増加しました。



2012年10月26日撮影
戸倉地区で見られたガラモ場